

bosyuu 令和六年度 第五十九回 関西俳句大会

日時 令和六年五月二十五日(土)

会場 中央電気倶楽部ホール

主催 公益社団法人 俳人協会

後援 朝日新聞社

朝日新聞社賞・関西俳句大会賞

末座とはいへど月には遠からず

京都府

藤堂くにを

関西俳句大会賞

しやぼん玉一步踏み出し吹く子かな

奈良県

貞許 泰治

船底の暈のほふ帰省かな

大阪府

今井 文雄

るのこづち取つてゐる間に次の駅

広島県

石橋 康徳

噴水のまた一からを始めけり

広島県

同

楫を足すアイヌの星の物語

兵庫県

堀 瞳子

今頃は数学の筈大試験

愛知県

中島 葵

地震の地の割れし畑より大根抜く

愛知県

中川キヌヨ

最大の円を描きて独楽止まる

三重県

伊藤 孝子

大鷹を伊吹の空に見失ふ

奈良県

松原 綾乃

特選 南 うみを 選

船底の畳のにほふ帰省かな

今井 文雄

無駄足の一步もなかり弓始

杉本征之進

特選 柴田 多鶴子 選

寝て食べて今は寝てゐる帰省の子

小島 元博

替へ足袋のそれも汚して寒稽古

池田 雪彦

末座とはいへど月には遠からず

藤堂くにを

特選 石井 いさお 選

聞いてゐぬ事まで話し遠足児

堀上 慶子

煤で書く俘虜の葉書や冬ざるる

岡田 有且

ひざの子のぬくみとゆるる半仙戯

森下まゆみ

特選 片山 由美子 選

しやぼん玉一步踏み出し吹く子かな

貞許 泰治

大鷲を伊吹の空に見失ふ

松原 綾乃

ひんやりとシーツの乾き花八手

衣川 洋子

特選 手拝 裕仁 選

地震の地の割れし畑より大根抜く

中川キヌヨ

鶯替ふるフォークダンスをするやうに

岩崎可代子

今頃は数学の筈大試験

中島 葵

特選 江崎 紀和子 選

雪に寝て雪より白し寒立馬

富田 範保

噴水のまた一からを始めけり

石橋 康德

末座とはいへど月には遠からず

藤堂くにを

特選 谷口 智行 選

かくれんぼ布団の中にひとりゐる

川合 悦子

十二月八日に届く回覧板

岡田 邦男

いつせいに熊野古道の柿熟るる

磯 勢子

特選 古賀 雪江 選

避難所に膝かかへつつ鱒起し

佐藤 舟若

荒梅雨に包まれて家小さくなる

福井 貞子

特選 朝妻 力 選

雪見舞シヨベルと命綱担ぎ

山内 節子

鳳輦の過ぎたる真闇蚯蚓鳴く

大山 文子

工房のかの塗師いかに寒の地震

田中 珠生

特選 西村 和子 選

じよんがらのたけなは陸奥の雪たけなは

七種 萩子

本線を逸れゆく尾灯秋の暮

細野 恵久

寒稽古くつきり古稀の力こぶ

有村真由美

特選 浅井 陽子 選

青空を泳ぐかたちに柳葉魚干す

前田 拓

特選 宮谷 昌代 選

楫を足すアイヌの星の物語

堀 瞳子

今頃は数学の筈大試験

中島 葵

特選 名村早智子 選

柿吊す窓半分の空残し

矢野 紘子

晴れ晴れとたふれてをりぬ秋桜

乾 祐子

祝詞から佳き名こぼれて七五三

宮谷ふさ子

特選 桑島 啓司 選

忸怩たるさまにも見えず破れ蓮

野口 城

蘆牙や底力とはこんなもの

藤本 厚子

役に立たうと立つまいと案山子立つ

坂元 軒二

特選 才野 洋 選

一族を集めひとりの入学式

松下 孝裕

手から手へ湯気渡りゆく大根焚

六車 佳奈

鯛焼に口あり何か言ひたさう

渡里トモ枝

特選 田島 和生 選

偕老の夫よりもらふお年玉

服部登紀子

花冷や捨つるに惜しき母の服

松井 春雄

甲板に離任の教師鯖東風

小都 妙子

特選 野中 亮介 選

餅搗の一日に日の昇りけり

古川よし秋

大鷲を伊吹の空に見失ふ

松原 彩乃

海女小屋を縛り上げたる野分かな

西尾 敬一

特選 村上 鞆彦 選

しやぼん玉一步踏み出し吹く子かな

貞許 泰治

しののめの梅が香谷をながれけり

水間千鶴子

ゐのこづち取つてゐる間に次の駅

石橋 康徳

特選 山尾 玉藻 選

しやぼん玉一步踏み出し吹く子かな

貞許 泰治

床の間に余震の埃寒に入る

前 九疑

抜け径のことに混み合ふ宵ゑびす

大谷 昌子

特選 伊藤 瓊子 選

窯入れのためき居並ぶ野菊晴

平尾美智男

神神の去にて出雲の山眠る

小澤 巖

特選 田中 春生 選

最大の円を描きて独楽止まる

伊藤 孝子

白鳥のぼとりと銀のひとしづく

倉田 信司

藁莢を以て呼び戻す猟の犬

平田 冬か

特選 和田 華凜 選

葉桜や窯出しの日の空青く

渡辺 美晴

百選の夕日に染まる水仙花

小林真千子

牛黒く馬赤くして初御空

春名あけみ

特選 井上 弘美 選

楯を足すアイヌの星の物語

堀 瞳子

ぎす鳴くや鋤夫の彫りし摩崖仏

富田 範保

翼あるものも歩けり大干瀉

西尾 敬一

特選 尾池 和夫 選

地虫鳴くこれより魔物たちの夜

國田 欽也

帰路もこの道にしませう冬董

井上恵美子

花道の名告は五歳村芝居

松村 晋

特選 小川 軽舟 選

ぶらんこにヤングケアラ―漕ぐでもなく

江藤隆刀庵

しやぼん玉一步踏み出し吹く子かな

貞許 泰治

母校より始業のチャイム大根蒔く

古川 邑秋

特選 三村 純也 選

みづうみのこよなく晴るるいさざ舟

森山 久代

みのこづち取つてゐる間に次の駅

石橋 康徳

基地内の墓に畑に草萌ゆる

上西 吾人

特選 森田 純一郎 選

地震の地の割れし畑より大根抜く

中川キヌヨ

刀匠の槌音高く冬に入る

松原 綾乃

虹立ちて災禍の空へつながりぬ

松本ゆきこ

特選 岩城 久治 選

正月や輪島で買ひし塗の盃

山本 敏子

慈姑剥く夫しづかなり慈姑剥く

吉元美枝子

老医言ふ普通の風邪で良かつたぞ

倉田 信司

特選 徳田 千鶴子 選

春雨の音は墨絵の余白より

斎藤 詳次

やつと喜寿たうたう喜寿よ梅ひらく

斎藤 壽代

特選 富吉 浩 選

寝返りの一瞬をさす寒さかな

池田 雪彦

商品の雛に敬語の老店主

堀上 慶子

船底の畳のにほふ帰省かな

今井 文雄

特選 大串 章 選

長老の座へ手を曳かれ新年会

古川よし秋

特選 能村 研三 選

最大の円を描きて独楽止まる

伊藤 孝子

最澄の宇宙比叡の星月夜

岩田 宣清

鉋丁のはた俎の音の春

倉田 信司

特選 西池 冬扇 選

千枚漬終へれば風の鳴るばかり

岡島 千秋

御降りやぽつくり寺の軒借りる

内田 茂

どうにでもしてくれと冬瓜ごろり

板倉眞知子